



株式会社タムロン  
代表取締役社長 鯨坂 司郎

## 3期連続の増収増益を達成。 100年企業に向けて、光とともに未来へ進みます。

### 2019年12月期の総括

2019年の経営環境は、当社の中核事業であるデジタルカメラ市場を見ると、レンズ交換式カメラはフルサイズミラーレスカメラが堅調に推移しましたが、エントリーモデルを中心として一眼レフカメラの大幅な落ち込みにより縮小しました。交換レンズも同様に縮小し、コンパクトデジタルカメラも、縮小が継続しました。一方で監視や車載などの産業用向けカメラ市場では、米中貿易摩擦の影響や中国の消費低迷が見られたものの、増基調が継続しました。

こうした市場環境の中、2019年の経営成績は、主力事業である写真関連事業と特機関連事業の増収により、売上高は63,285百万円(前期比2.4%増)となりました。利益面につきましては、原価低減の推進効果や、自社ブランド交換レンズの新製品比率の向上などによって売上総利益率が前期比2.9ポイント改善し、売上総利益が大幅増益となったことから、営業利益は6,982百万円

(28.7%増)、当期純利益は5,330百万円(前期比23.1%増)となり、3期連続の増収増益、過去最高の当期純利益を達成することができました。

セグメント別では、写真関連事業は、売上高46,175百万円(前期比1.2%増)、営業利益8,635百万円(前期比21.4%増)と増収増益となりました。自社ブランドは、フルサイズミラーレス用交換レンズの販売が好調に推移し、大幅な増益となりましたが、一眼レフカメラ用の既存製品を中心に販売が伸び悩んだことにより減収となりました。一方、OEM関連は受注機種販売が好調に推移したことにより増収となりました。

レンズ関連事業では、コンパクトデジタルカメラ用レンズが市場縮小の影響により減収となり、ドローン用レンズも受注機種販売が伸び悩んだことにより、売上高2,739百万円(前期比20.3%減)の減収となりましたが、営業利益は137百万円(前期比69.3%増)と増益となりました。

成長が続く監視カメラ用レンズと車載カメラ用レン

ズで構成される特機関連事業では、監視カメラ用レンズの中国での販売やカメラモジュールの販売が好調に推移したことや、車載カメラ用レンズでのセンシング向け製品の販売増による2ケタ増収により、売上高14,370百万円(前期比12.8%増)、営業利益994百万円(前期比22.3%増)と2ケタの増収増益となりました。

### 中期経営計画の進捗状況

2020年を最終年度とする中期経営計画(2018~2020)は、2017年の実績を起点として、売上高で100億円の増収となる720億円、営業利益は1.5倍以上となる66億円、そしてROE9%以上を掲げ、2年目である2019年は売上高650億円、営業利益59億円を目指してスタートしました。

中期経営計画では、監視カメラや車載カメラ用レンズなどの産業向けの売上拡大、および中核事業である写真関連事業の収益性改善を戦略の柱としています。こうした中、この2年間で、写真関連事業の収益性改善は想定以上に進み、利益面およびROEは、2020年の目標値を1年前倒しで達成しました。一方で、前提為替レートからの大幅な円高進行、想定以上の一眼レフカメラ市場の落ち込み、ドローン市場のBtoCにおける実績の見通しが大きく乖離したことなどから、売上高の目標達成は困難な見通しとなっています。

これらを踏まえ、中期経営計画の最終年度である2020年は、この2年間の成果である写真関連事業の高収益体質を維持しつつ、もう一つの事業の柱である監視/FA分野においても収益性の改善を目指していきます。

### 事業の展望

当社は、設計から生産・販売まで一貫して行える数少ない光学メーカーであり、「事業の機会が社会課題の解決にある」との考えのもと、強みである光学技術を活かした製品を創造することで、社会とともに成長しています。当社の中核である交換レンズ事業は、市場縮小とミラーレス化が進む中、いち早くお客様のニーズを分析し、商品企画に反映しています。ミラーレス用レンズに特化し、ラインナップを拡充することで市場が厳しい状況下でもシェアを拡大して売上を伸ばしていきます。

監視/FA分野では、顔認証等のAIを組み合わせた都

市監視も含めた旺盛なセキュリティ需要と、製造業の高度化・効率化推進による底堅いFA/マシビジョン等の需要をしっかりと取り込み、広がりを見せる産業向けでの裾野拡大も図っていきます。また、社長就任時に掲げた変革テーマ「販売・生産・開発のグローバル化」と「開発体制の再構築」の方針のもと、従来の日本での開発以外に中国・外部委託と多様な開発体制を構築しました。その開発体制を効率的に活用し、高付加価値品での差別化、開発のスピード向上・コスト低減を図り、激しい競争環境下でも競争力を維持してまいります。

車載カメラ市場は、車載カメラ搭載義務化等の法制度の後押しに加えて、自動運転を見据えた転換期であり、高成長が続いています。同時に高度化等の技術革新期であり、耐熱性等の要素技術開発と投資を積極的に行い、業界での地位を確立していきたいと考えています。

さらには、高齢化社会が進む社会において、患者の負担を軽減する低侵襲医療用の製品に、大きな事業機会があると考えています。4月には医療用事業の専門部署としてMD推進部を新設しました。売上規模はまだ小さいですが、小型化かつ高品質・高解像度が求められる医療分野を将来の基幹事業とすべく育成してまいります。

### 競争力強化に向けた 人材確保と職場環境づくり

当社の最も重要な経営資源は「人材」であり、現在当社で働く社員は優秀な人材が揃っていると考えています。一方で将来に目を向けると、「光で感動と安心を創造し、心豊かな社会を実現」することで、企業価値を向上させるためには、より多くの優秀な技術者を採用することや国籍や性別、年齢などに関係なく、異なる考え、視点、価値観を受け入れ、活かしていくことが重要であると考えています。加えて、社員が持つ能力を最大限に発揮できる環境を整えることが企業の競争力を高めます。その一つとして女性の戦力化を掲げ、2015年には、仕事と子育ての両立のサポートを目的とした事業所内保育施設「タムロンキッズ」を開園しました。「タムロンキッズ」があることが入社決め手となった社員もおり、2014年に7.8%だった女性管理職比率は、2019年では10.9%と、3.1ポイント上昇しています。さらに2020年は、社員の健康管理を戦略的に実践していることが評価され、健康経営優良法人に初めて認定されました。

## トップメッセージ



## ESG戦略

### 環境

2019年のCO<sub>2</sub>排出量は、売上高原単位で2016年比3.8%減少の目標に対して、3.5%の減少にとどまり未達成となりましたが、CO<sub>2</sub>絶対量を減らすことができたことは大きな成果であったと考えています。

SDGsや気候変動問題に関する国際的な枠組みであるパリ協定に基づいて、世界各国は気候変動への取り組みを強化しています。また、集中豪雨や台風などの異常気象の増加によって、気候変動が企業の成長に重要な課題であるとの認識が広がっています。

当社でも持続可能な社会の中に当社の持続的成長があるとの認識のもと、脱炭素社会へ向けた戦略及び施策を検討しています。今までの省エネ中心の削減活動に加えて再生可能エネルギーの導入によって、CO<sub>2</sub>排出量を削減します。さらには、廃棄物の削減や水資源の保護、海洋プラスチック問題の解決に取り組んでいきます。

### 社会

経営のグローバル化に伴い、環境問題はもちろんのこと、人権や労働問題、情報漏洩など、さまざまな社会課

題に対処する必要があると認識し、2007年より国連グローバル・コンパクトの10原則への支持を継続しています。当社に関連する対処すべき重要なCSR課題は経営計画に落とし込み、課題解決に取り組んでいます。

また、当社の中核事業であるデジタルカメラを通じて撮影した写真や映像は、人々に感動や安心をもたらし、人の心を豊かにする力があります。当社では、世の中のさまざまな課題やニーズを事業機会として捉え、「光で感動と安心を創造し、心豊かな社会の実現へ貢献したい」という考えのもと、未来に向けて様々なビジネスに挑戦していきます。

#### ・監視カメラ用レンズ:

都市犯罪の増加に対し、高性能な監視用カメラ用レンズを提供することで、安心・安全な社会に貢献するとともに、写真関連事業に並ぶ第二の柱への成長を目指します。

#### ・車載カメラ用レンズ:

自動運転の最新技術であるLidarや車載用レンズを提供することにより、事業規模の拡大を図りながら、交通事故や増加する渋滞などの社会課題解決に貢献します。

#### ・医療用レンズ:

日本をはじめ中国などでも高齢化社会が早まると言われている中、低侵襲を可能にする医療用レンズなどを提供することにより、患者や医療関係者の手術の負担軽減に貢献していきます。

#### ・ドローン用レンズ:

農業やさまざまな分野での計測・監視に用いられるドローン用レンズなどを普及させることで、人ができない仕事を解決しながら、売上の拡大を目指します。

### ガバナンス

私が社長に就任した2016年から、ガバナンス強化に取り組んでおり、コーポレート・ガバナンスに対する考え方は、「コーポレートガバナンス・ガイドライン」で明確にしています。

当社は女性1名を含む社外取締役2名を選任しています。専門的・独立的な視点から意見・助言を取り入れることができるため、より良い意思決定につながっています。社外取締役には十分に役割を果たしていただくため

に、取締役会資料の事前配布のほか、社外取締役就任時の研修や工場見学など、当社を深く理解していただくための取り組みも積極的に実施しています。また、指名委員会・報酬委員会の設置に加えて、取締役数の削減や業績連動型株式報酬制度を導入するなど、ガバナンス改革は着実に進展しています。

さらには、コンプライアンス経営の徹底を図る一環として、内部通報制度の充実にも取り組んでいます。通常の社内ルートでの内部通報対応の仕組みのほか、2019年には経営層からの独立性を有する通報ルートとして外部にも受付窓口を設置しました。

## 株主還元

株主還元は、業績に応じた配当として配当性向35%程度を安定的に実施することを目標としています。当期は、1株当たり年間配当金を前期に比べ8円増配し68円としました。これは過去最高の年間配当金となります。当社では、長期的視野での経営体質強化および新事業展開などを図るための研究開発や設備投資などを勘案す

るとともに、株主の皆様へ安定した利益還元を継続していくことを基本方針としています。

## 100年企業に向けて

当社は、光学のスペシャリスト集団として、さまざまな産業分野にレンズを供給することで、産業・社会・人々の暮らしに感動・安心・信頼を提供することを使命としています。現在、「測る」というニーズが産業分野のあらゆるシーンで高まっており、当社が培ってきた光学・機構設計・生産技術をコアとしたさまざまなノウハウを、より一層活かせる事業環境にあると捉えています。

また、当社は、2020年11月に創業70周年という節目を迎えます。既存ビジネス分野での深耕、そしてSDGsを事業機会と捉えた新たなビジネス分野への参入も図り、次の10年、そして100年企業に向けてさらに歩みを進めていく所存です。社会への貢献度を高め、さらに社会に必要とされる企業となるべく、タムロンならではの「産業の眼」を創出し、企業価値の向上を図っていきます。当社グループの今後にご期待ください。

株式会社タムロン  
代表取締役社長

黒坂 司郎

## 経営理念

わが社は世界光学工業界のトップをめざして、堅実に前進し、顧客の要望に適う個性豊かな高品質の製品を創造し、これを顧客の満足する価格で販売し、顧客の喜びから生ずる利潤に基づいて、企業を発展、充実させることにより、株主及び社員の幸福を実現することを基本理念とする。

## ブランドメッセージ

産業の眼を創造貢献するタムロン